

(第三種郵便物認可) 平成30年(2018年)3月6日(火曜日)

# 銅合金製品の三芳合金工業

## 新熱処理炉2基導入 力強化 納期対応力強化

銅合金製品メーカーの三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長



・萩野源次郎氏)は7月までに本社工場に写真に新たな熱処理炉を2基導入する。1基を処理能力の高い炉に更新し、1基を増設する。納期対応力を強化するとともに、航空機や電子機器、自動車関連などで高まる需要を取り込む。投資金額は8千万〜9千万円の見通し。本社工場の生産能力は約3割高まる。5月には、銅に別の金属を溶かし込む溶体化処理のため加熱炉を

更新。900〜1千度の高温に材料を加熱するタイプで、更新前の約2倍となる2トを1度に熱処理できる。燃料は重油から天然ガスになるためCO<sub>2</sub>の排出を大幅に削減できる。さらに6〜7月をめ

高める時効硬化処理のため電気炉を増設。200〜600度範囲で精密な温度管理により、材料を熱するもの。導入するのは5基目となる。加熱炉の増設に当たり工場内のレイアウトを変更している。同社では、旺盛な需要を捕捉しながら供給の拡大を進めており、設備に加えて人員面の強化も推進。新卒・中途の採用を進めながら増員を図っている。萩野社長は「18年度には生産量を1割以上は増やしたい」と話している。

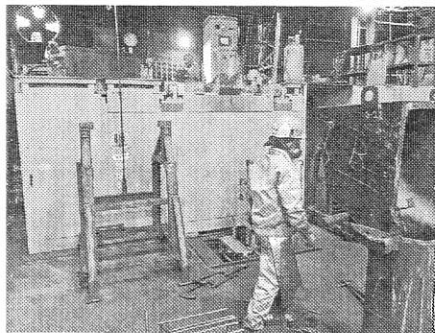
### 三芳合金工業

## 新溶解鑄造炉が稼働

### 半導体関連など需要増に対応

三芳合金工業は本社工場に新溶解鑄造炉を写真に稼働させた。能力を増強するため約10基のうち1基を更新前の2倍の容量がある

炉に入れ替えた。半導体関連や抵抗溶接関連の材料需要に対応することが狙い。投資金額は約1億2千万円となっている。更新した溶解鑄造炉は3番目に大きな設備。炉の容量は従来の約2倍となる約1ト。昇温スピードが速く溶解効率が高いほ



か、自動点火機能で早朝から無人運用できることなどで1日当たりの鑄造量は2倍以上に高まる。現在は顧客の承認を得るためのサンプル品を製造。併せてデータを収集しながら品質面の検証を進めている。